



2025 第32回 日本海藻協会シンポジウム

## 気候変動と海藻資源

日 時： 2025年10月17日(金)14:00-16:50

会 場： 東京海洋大学楽水会館1F大講義室・(東京都港区港南4-5-7)

参加費： 無 料 (講演要旨集は会員のみ無料、会員外は2,000円)

主 催： 日本海藻協会 協 賛： 海藻活用研究会

13:30 開場

司会 日本海藻協会理事 白石展子

14:00 – 14:20 開会のあいさつ 続いて  
氣候変動と海藻資源

日本海藻協会会長 藤田大介

14:20 – 14:55 相模湾の磯焼けの拡大とカジメ藻場再生に向けた取組み

神奈川県庁水産課 木下淳司

14:55 – 15:05 休憩

15:05 – 15:40 持続的なコンブ養殖生産に向けた取組みの紹介

フジッコ(株) 寺井雅一

15:40 – 16:15 海藻の育成と太陽光～紫外線を制御せよ～

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産大学校 阿部真比古

16:15 – 16:45 総合討論

閉会のあいさつ

日本海藻協会理事長代行 吉積一真

17:15～ 懇親会 主催会員1名無料、2名以降5,000円、協賛会員5,000円、非会員5,000円、学生3,000円

### <企画趣旨>

日本は世界屈指の海藻利用国で、その資源は、国産天然、海面養殖、陸上養殖、あるいは海外からの輸入によって供給されています。しかし、近年、海藻の資源確保は、国内のみならず世界各地で海水温の上昇や異常気象など気候変動の影響を大きく受けるようになっています。高水温は、海藻の生理に影響するだけでなく、植食動物の活動を活発化させ、藻場海藻や養殖海藻に甚大な被害を及ぼします、また、異常気象(暴風、強波浪、降水量増大など)は、土砂崩れに伴う濁り・堆積物の増加)も引き起こし、海藻が流失・枯死する機会を増やしています。一方、気候変動に対峙する人間の諸活動(増養殖、流域や海域の管理など)も海藻資源に影響を及ぼしうるのです。今回は、地域の藻場を預かる地方研究機関、民間企業、大学などの様々な立場でこの問題に取り組まれている方々に話題提供をお願いし、今後の方向性を議論したいと思います。

参加者は、所属、懇親会の参加の有無も書き添えて、**10月6日(月)まで**にお申し込み下さい。  
可能な限り、事前申し込みをお願いします。

問い合わせ先：日本海藻協会事務局（吉積一真）

E-mail: otoiawase@japan-kaiso-association.com

2025 年      月      日

日本海藻協会  
事務局宛

2025 年度

第 32 回 日本海藻協会シンポジウム参加申込書

2025 年 10 月 17 日(金)開催の第 32 回日本海藻協会シンポジウム

シンポジウム・懇親会に参加します。

(ご参加いただけるものに○をつけてください。)

氏名: \_\_\_\_\_

団体名: \_\_\_\_\_

所属又は役職: \_\_\_\_\_

E-mail アドレス: \_\_\_\_\_

複数でご参加の場合は、代表者様のみ上記にご記入いただき、その他の方の情報を下記にご記入をお願い致します。

(シンポジウムと懇親会欄には、参加:○、不参加×をご記入ください。)

氏名	所属又は役職	シンポジウム	懇親会	E-mail アドレス

合計参加人数: \_\_\_\_\_ 名

お願い: 本紙は 10 月 6 日(月)17 時までに 協会事務局宛に必ず e-mail  
(otoiawase@japan-kaiso-association.com) にてご返信くださいませ。